

人生の意味を探る対話

“QoL (Quality of Life)”からみたインクルーシブな医療と社会

日時 2021年3月6日(土) 14:00~16:00 (オンライン開催) / 参加無料

開催趣旨

クオリティ・オブ・ライフ (Quality of Life, QoL) の観点から考える、インクルーシブな医療や社会とは一体どんなものなのでしょうか？それは、私たちの人生にどんな意味をもたらすのでしょうか。

仏教用語には、「生老病死 (しょうろうびょうし)」という言葉があります。生まれること、老いること、病気になること、死ぬことの4つの苦のことを指します。この苦というの、「痛い、苦しい」という意味ではなく、「自分の思うようにいかない」という意味で、生きている限り避けることのできない、この世での人間の苦悩と言われています。

苦は避けては通れない一方、再生医療を筆頭とするいわば医療革命によって、人類はさらに病気に打ち克っていくことはできるでしょう。しかしながら、それと同時に、100%完璧な治癒ではなく、何らかの障害を抱えながら生きていく、という人がどんどん増えていくことも忘れてはなりません。また、治療はしない、治療ができないという人もいます。

死を考えることは、生をどう考えるかということに繋がり、病や障害にどう対峙するかを選択にも関わります。そうした人々の覚悟を踏まえ、医療や社会はどう変わっていくべきでしょうか？

障害を抱えても、それぞれにふさわしい形で仕事や社会復帰・参画することで、自身の価値観や人間関係を通して、心が満たされることは人生に大きな意味をもたらすのではないのでしょうか。同時に、医療費や社会保障費の増大に歯止めをかけることにもつながり、持続可能な社会へと変容していけるでしょう。

人間を全体としてとらえ、ケアや支援やサービス、コミュニケーションなど様々な要素をいかに繋げていくことができるのでしょうか？人生を豊かにするためのこれからのテクノロジーの処方箋はどんなものなのでしょうか？

多様な視座からの対話を通し、私たち一人ひとりがQoLを考えていく中で、これからの生き方、そして、私たちが望むべき医療やケア、社会や暮らしを考えていきます。

登壇者



カール・ベッカー氏 京都大学 学際融合教育研究推進センター 政策のための科学ユニット 特任教授
1986年ハワイ大学教育学部助教授。1988年筑波大学人文学類哲学思想系外国人教師。1992年京都大学教養部助教授。2003年京都大学大学院人間・環境学研究科教授。2007年京都大学こころの未来研究センター教授。 諸文化の宗教 (死生観・倫理観) を理解し、治癒方法、倫理道徳、価値体系等の研究を通じて、日本独自の新しい対応方法の可能性を探求。近年、医療倫理学、バイオエシックス (環境倫理学を含む生命倫理学) の問題を中心に研究。「日本的」な医療倫理と教育実践を目指し、生きがい感と自殺防止の関わり、患者中心のインフォームド・コンセント、事前指示、ホスピス、ターミナル・ケアや葬儀等研究。
主な観点: 医療現場のコミュニケーション/個人の選択肢と権利/格差・差別の問題/先進医療に潜む問題/普及医療に向けた投資対効果/持続可能な高齢者社会 など。



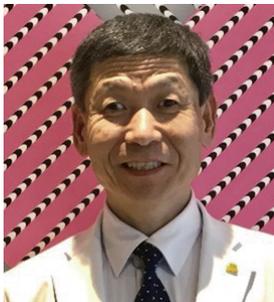
吉野 由美子氏 視覚障害リハビリテーション協会 高齢視覚リハ分科会代表
1947年生まれ。東京教育大学附属盲学校 (現: 筑波大学附属視覚特別支援学校) の小学部から高等部を経て、日本福祉大学社会福祉学部を卒業。名古屋ライトハウスあけの星声の図書館 (現: 名古屋盲人情報文化センター) で中途視覚障害者の相談支援業務を行ったのち、東京都の職員として11年間勤務。その後、日本女子大学大学院を修了し、東京都立大学と高知女子大学で教鞭をとる。2009年4月から2019年3月まで、視覚障害リハビリテーション協会会長。退任後、視覚障害リハビリテーション協会の広報委員と高齢視覚リハ分科会代表を務める。中途視覚障害者のためのリハシステムの普及活動の現場を通して、障害福祉サービスの制度や支援、ケアの在り方から医療・介護と生き方を考える。あらゆる生まれた命の幸せを追求する権利の「護り手」として人生を見つめる。



高橋 政代氏 (株)ビジョンケア 代表取締役社長 医学者 眼科医
従来再生不可能とされていた網膜の再生医療技術の研究・開発に取り組む。2014年、自己由来のiPS細胞を患者へ移植する臨床研究を世界で初めて実施。その後、神戸アイセンターを創設し、再生医療の安全性を確認するとともに、患者のQoL向上、インクルーシブな社会実現に向けて積極的に各種活動を展開。
医学界では、視覚障害者のQoLをデータとして取っていく研究も始まっている。AI時代の全人的な医療として、米国は、AIによる在宅オンライン診療に舵を切った。医療は病院に閉じ込められず、一般家庭にまで広がっていく大きな転換点にいる。新しい医療の在り方を日本としてどう考えるか政策や制度にも提言していきたい。



三宅 琢氏 医師 医学博士 眼科専門医 産業医 労働衛生コンサルタント (株)Studio Gift Hands 代表取締役
ICTを患者に紹介しながら診察・治療を行う眼科医。東京大学未来ビジョン研究センター客員研究員、東京大学先端科学技術研究センター客員研究員、東京医科大学眼科学教室兼任助教、産業医科大学作業関連疾患予防学訪問研究員、公益社団法人NEXT VISION理事、一般社団法人産業医ラウンジ理事長。疾病や障害を理由に自己実現ができないという社会の課題を探る。
障害者向けデジタルテクノロジー活用によるケアと場づくりに加え、今後の医療や社会における「真善美」といった倫理観や哲学の重要性が増していると考えます。



和田 浩一氏 公益社団法人NEXT VISIONビジョンパーク 情報マスター 視覚障害リハビリテーション協会会長
中学2年で眼の難病と診断され、30歳で文字が読めなくなり、現在は全盲。盲学校の教員として35年間勤務。視覚障害教育に情報機器の導入を推進し 視覚障害者用のソフトウェアの開発や研究を行った。
医療・福祉・教育・労働等の視覚障害リハビリテーションの専門家として、文字の読み書きや移動の困難さなど見え方によって生じる様々な課題を解決する方法を一緒に考える。日本のデジタル改革・基盤の整備については、デジタル改革担当大臣にアクセシビリティ、UI/UXの整備を提言。



武田 志津氏 (株)日立製作所 専門理事 兼 研究開発グループ技師長 兼 基礎研究センター日立神戸ラボ長
バイオテクノロジーを通じて社会貢献することが自身のミッションと捉えている。米国ならびに国内のアカデミアでの研究員を経て2001年(株)日立製作所に入社。タンパク質間相互作用ネットワーク解析を経て、再生医療分野での研究開発に従事。2017年には日立神戸ラボを開設し、細胞の自動培養技術の社会実装に取り組んでいる。再生医療と両輪で進める「ロービジョンケア」の活動においても、ワークショップや国際フォーラムを開催し、人のQoLとは何か、QoL向上にむけて何をすべきかを問い続けている。

● 進行・モデレーター： 沖田京子 (株)日立製作所 基礎研究センター 日立京大ラボ 担当部長)

タイムテーブル 3月6日(土)

13:30	zoom開場
14:00-14:05	ご挨拶・趣旨説明
14:05-14:15	【第一部】「生老病死(しょうろうびょうじ)に対する日本人の経験智」 カール・ベッカー氏
14:15-14:35	登壇者によるパネルディスカッション(20分)
14:35-14:45	【第二部】「(患者の)自己決定を支える医療やケアの在り方」 カール・ベッカー氏
14:45-15:05	登壇者によるパネルディスカッション(20分)
15:05-15:15	【第三部】「普及医療に向けた包括的なアプローチ」 カール・ベッカー氏
15:15-15:35	登壇者によるパネルディスカッション(20分)
15:35-15:55	参加者Q&A(20分)
15:55-16:00	総括

三部のテーマそれぞれ、冒頭にカール・ベッカー氏の講演がございます。

参加お申し込みは下記Webサイトより。

<https://www8.hitachi.co.jp/inquiry/hqrd/event2/form.jsp>



QRコード

●日立グループ社員有志活動「日立インクルーシブなみらいプロジェクト」との連携(本イベントのアクセシブルな運営を担当)

日立インクルーシブなみらいプロジェクト(略称:I-MIRAI)は、日立グループで働く障がい者と一般社員が、アクセシビリティやバリアフリーについて意見交換し、インクルーシブな社会を実現するために自主的に活動しているグループです。社内システムやリモートワーク環境のアクセシビリティ向上に向けたワークショップの開催、社内SNSやメーリングリストなどによる情報発信などを通じて、相互理解を深め、障がいがあっても当たり前で働けるインクルーシブな環境を醸成し、そこから、製品やサービスのインクルージョンへつなげていこうという試みです。



当日は、手話通訳とリアルタイム字幕配信も予定しております。

●NEXT VISION運営の神戸アイセンタービジョンパーク、isee!運動なども紹介予定。



主催 (株)日立製作所 基礎研究センター 日立神戸ラボ

共催 (株)ビジョンケア (公社) NEXT VISION

スクリーンリーダーをお使いの方は、お申込みサイトのリンクが有効でないことがあります。その場合は、お手数ですが、URLをコピーしてご利用ください。